

福岡市地下鉄中期経営計画 2025-2028

令和7年3月
福岡市交通局

第1章 福岡市地下鉄中期経営計画の策定にあたって

福岡市地下鉄中期経営計画の概要

- (1) 福岡市地下鉄中期経営計画の策定趣旨及び位置づけ
- (2) 計画期間

第2章 施策体系と主要事業

1 施策体系

2 主要事業

- (1) 安全・安心
- (2) 快適で質の高いサービス
- (3) まちづくり・環境配慮
- (4) 事業を支える経営基盤

3 目標一覧

第3章 財政計画

1 輸送人員の見込み

2 投資計画

3 収支計画

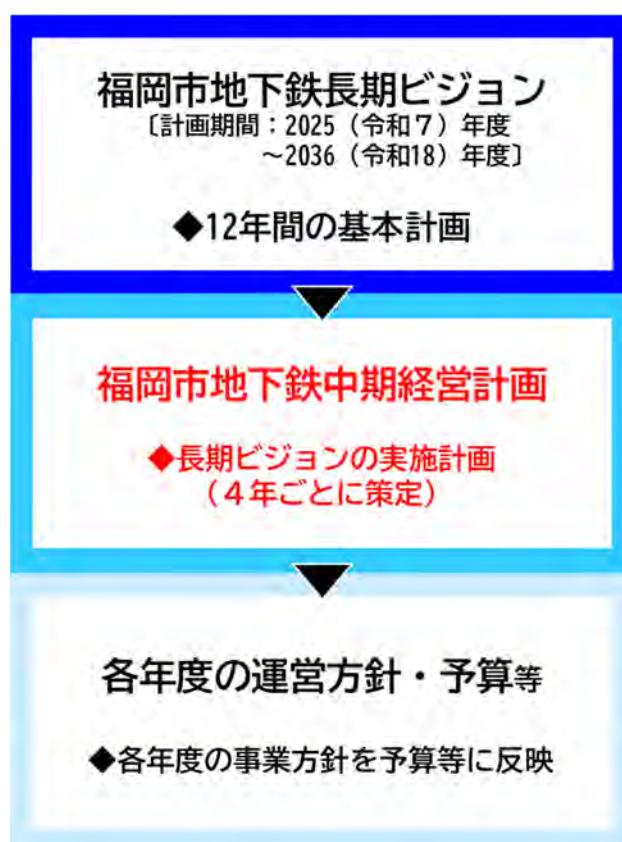
福岡市地下鉄中期経営計画の概要

(1) 福岡市地下鉄中期経営計画の策定趣旨及び位置づけ

「福岡市地下鉄中期経営計画」(以下「中期計画」という。)は、2036(令和18)年度までの中長期的な経営の基本計画である「福岡市地下鉄長期ビジョン」(以下「長期ビジョン」という。)の目標達成に向けた施策の実施計画として、今後4年間に取り組む主要事業や財政計画を定めるものです。

この中期計画に基づき、毎年度の運営方針の策定や予算編成を行い、効果的・効率的に事業を推進していきます。

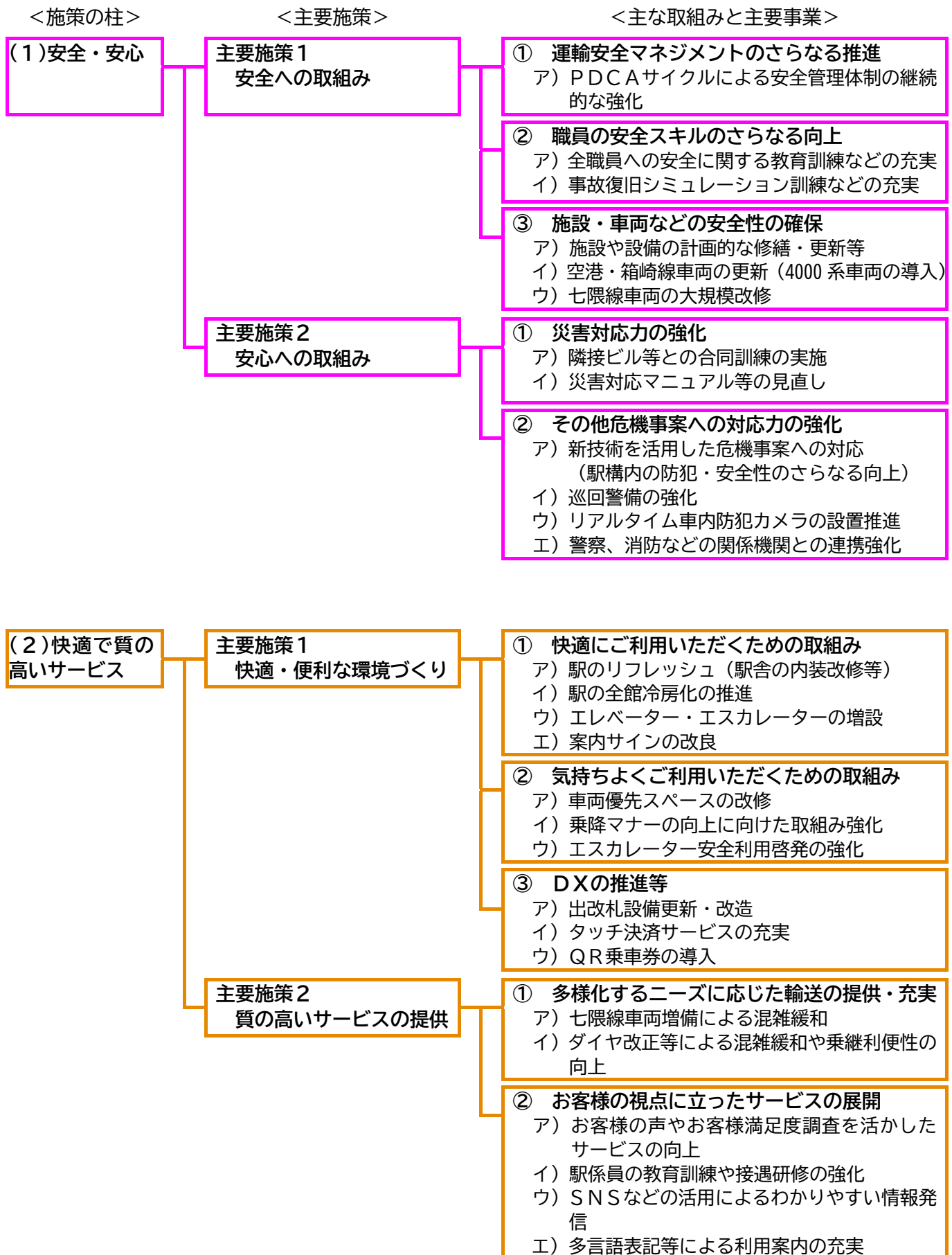
計画の体系

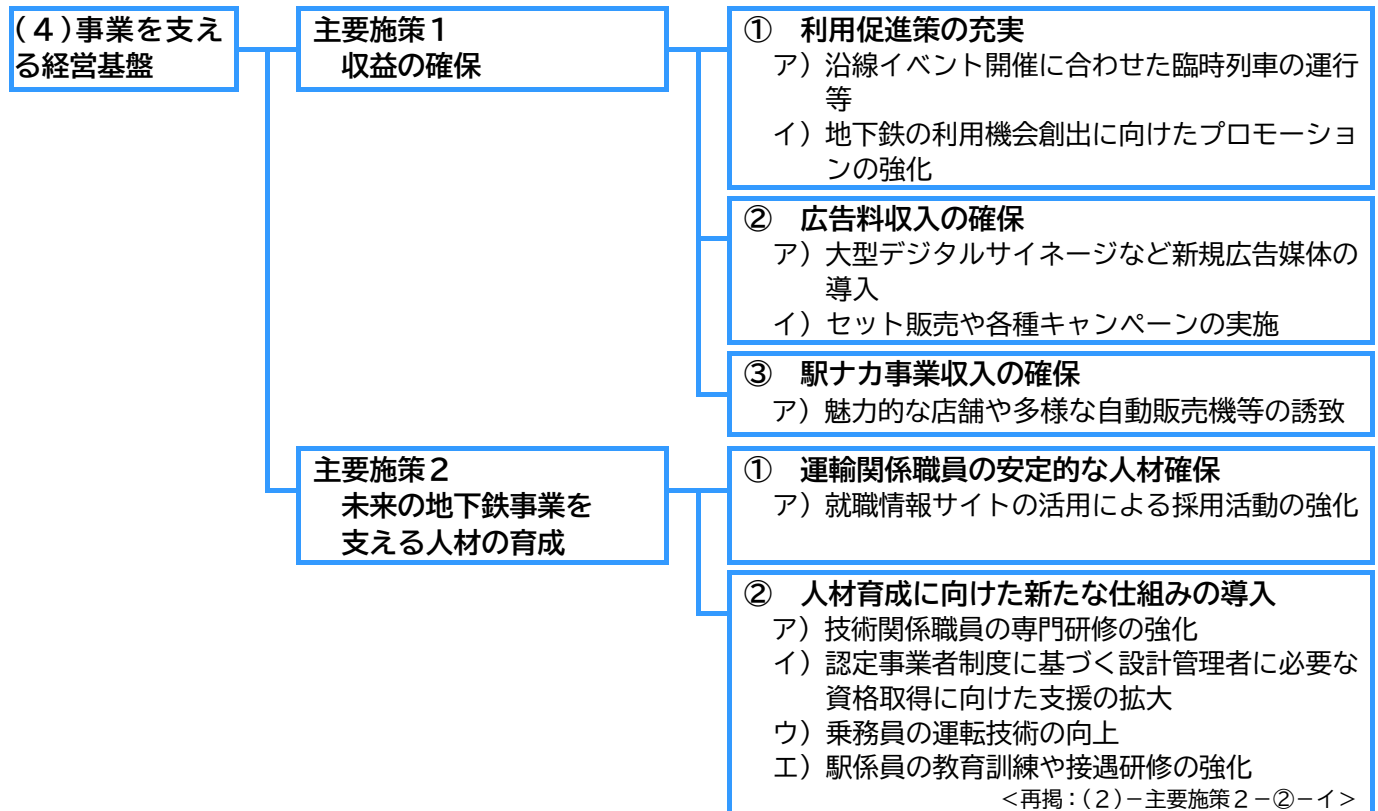
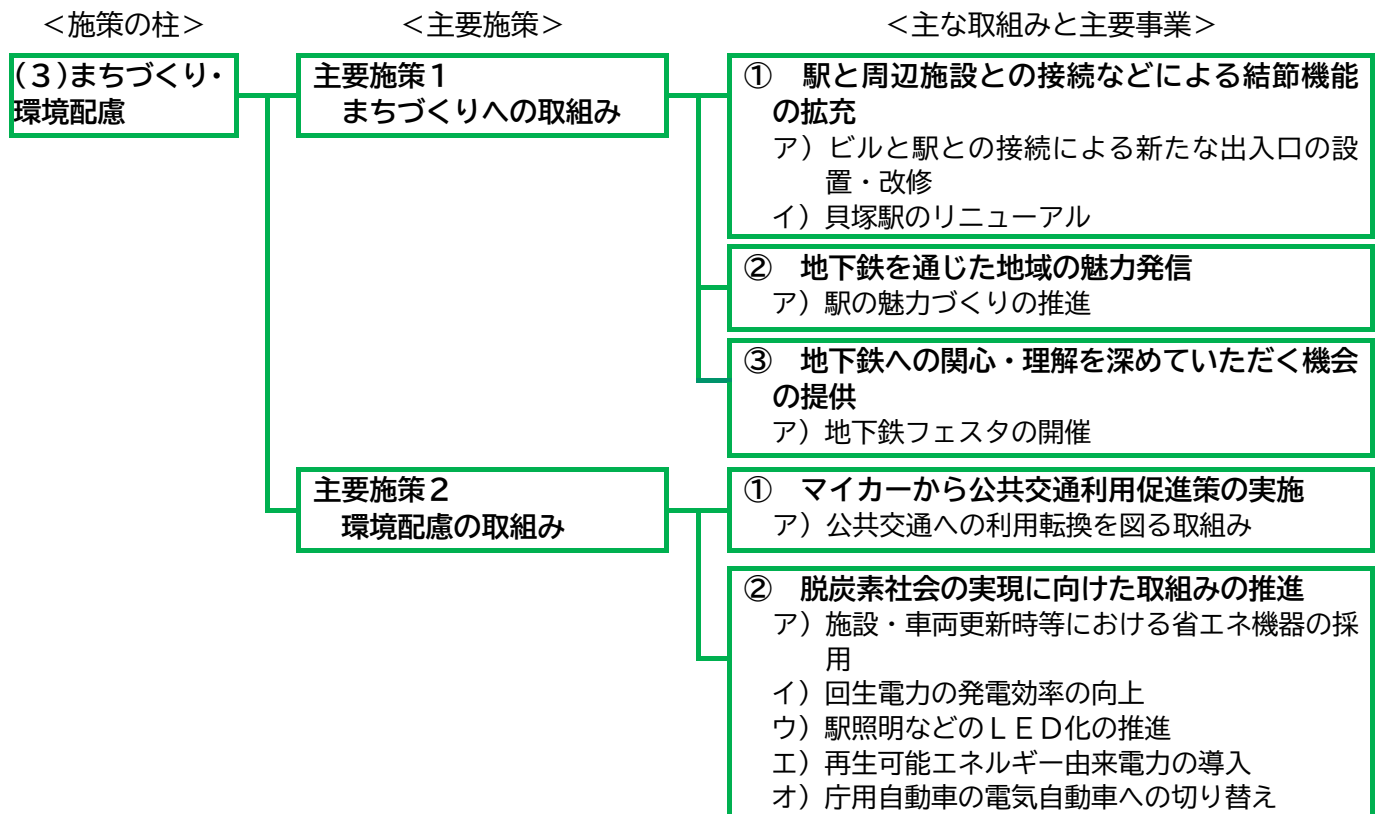


(2) 計画期間

中期計画は、長期ビジョンの計画期間である12年間に3期に分け、4年ごとに策定することとしており、本計画の計画期間は2025(令和7)年度から2028(令和10)年度までの4年間です。

1 施策体系





2 主要事業

(1) 安全・安心

安全方針・安全行動規範を遵守し、地下鉄をより安全に、安心してご利用いただくための取組みを推進していきます。

主要施策1 安全への取組み

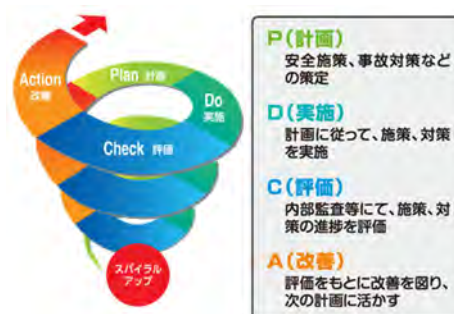
- ◆ 鉄道運転事故等“ゼロ”を継続できるよう、安全管理を徹底します。
- ◆ 整備基準に基づいた適切な定期点検等の保守を実施します。
- ◆ 施設、車両などの計画的な修繕・更新を実施します。

① 運輸安全マネジメントのさらなる推進

ア) PDCAサイクルによる安全管理体制の継続的な強化

輸送の安全を確保するための基本的な方針を示した「安全方針」及び「安全行動規範」に基づき、毎年度当初に安全重点施策などの実行計画を定め、それらに基づく取組みを実施します。

また、取組み内容については、内部監査による検証を行い、その結果を踏まえた改善を継続的に行う「PDCAサイクル」を1年周期で適切に機能させることで、安全管理体制を強化し続け、鉄道運転事故等の未然防止など、輸送の安全性の向上を図ります。



安全方針

1. 安全を全てに優先する。
1. 安全に関する規程を遵守する。
1. 誠実、厳正に職務を遂行する。

安全行動規範

- 1：一致協力して輸送の安全の確保に努めます。
- 2：輸送の安全に関する規程をよく理解するとともにこれを遵守し、厳正、忠実に職務を遂行します。
- 3：常に輸送の安全に関する状況を理解するように努めます。
- 4：車両、線路、保安設備等を常に安全な状態に保持するよう努めます。
- 5：職務の実施に当たり、推測に頼らず確認の励行に努め、疑義のある時は最も安全と思われる取り扱いをします。
- 6：事故・災害等が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全適切な処置をとります。
- 7：情報は漏れなく迅速、正確に伝え、透明性を確保します。
- 8：常に問題意識を持ち、業務の見直しが必要な場合は、積極的に対処します。

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
P D C Aサイクルによる輸送の安全性の向上	●安全重点施策などの計画策定（4月） ●内部監査（9月～12月）	●マネジメントレビュー（3月） 毎年度実施 アップデート	毎年度実施 アップデート	毎年度実施 アップデート

② 職員の安全スキルのさらなる向上

ア) 全職員への安全に関する教育訓練などの充実

安全を最優先とする意識の徹底、組織風土を確立するため、交通局全職員を対象とした「安全マネジメント教育訓練」に継続して取り組みます。

特に、地下鉄の乗務員、駅係員、鉄道施設及び車両の保守係員については、地下鉄設備の異常時対応や災害に備えた機器の取扱い訓練などを日頃から実施し、異常時の対応力強化を図ります。

なお、各種訓練の実施にあたっては、年間計画や実施方法等を随時見直すことで、さらなる安全意識の浸透、基本動作の徹底、知識及び技能の習得、維持及び向上に繋がります。

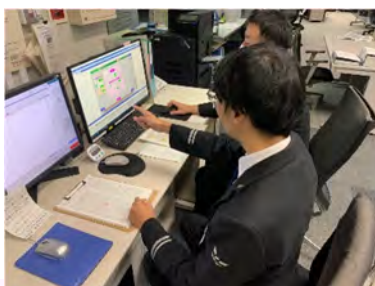
<主な訓練>



避難誘導訓練（乗務員）



転てつ器取扱い訓練（駅係員）



火災通報訓練（運輸指令）



脱線復旧訓練（保守係員）

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
教育訓練の実施 ・安全マネジメント教育（全職員） ・避難誘導訓練（乗務員） ・転てつ器取扱い訓練（駅係員） ・火災対応訓練（運輸指令） ・脱線復旧訓練（保守係員） など	●安全マネジメント教育訓練、避難誘導訓練、 転てつ器取扱い訓練、火災通報訓練（6月頃） ●脱線復旧訓練（12月頃）			
	→	毎年度実施	毎年度実施	毎年度実施
		↑	↑	↑
	アップデート	アップデート	アップデート	アップデート

イ) 事故復旧シミュレーション訓練などの充実

施設や設備の定期点検等により、不具合の未然防止を図っておりますが、不測の事態が発生した場合でも、事故復旧マニュアルに沿った体制を迅速・的確に構築し、また、判断・指示・情報伝達など対応能力の向上を図るため、指揮命令担当職員を対象としたシミュレーション訓練や、テロ事案や施設障害等の異常時を想定した警察・消防等関係機関との合同訓練について、時代に即した訓練内容とするなど、訓練内容の充実を図ります。



事故復旧シミュレーション訓練の様子



合同訓練の様子
（車両故障に伴う列車併結訓練）

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
事故復旧シミュレーション訓練、警察・消防等関係機関との合同訓練の実施 など	●事故復旧シミュレーション訓練（9月頃） ●関係機関との合同訓練（12月頃）			
	→	毎年度実施	毎年度実施	毎年度実施
		↑	↑	↑
	アップデート	アップデート	アップデート	アップデート

③ 施設・車両などの安全性の確保

ア) 施設や設備の計画的な修繕・更新等

トンネルなどの土木構造物やレールなどの軌道施設、変電所設備や信号設備など、地下鉄の運行を支える施設・設備については、定期的な点検の実施に加え、点検結果に基づいた長期補修計画を策定し、計画的に補修・更新工事等を実施することで、経年劣化などによる不具合を未然に防ぎ、列車の安全運行を確保します。

また、自動列車制御装置（ＡＴＣ）や車両検修設備など、車両に関連するシステム・設備についても、経年劣化による設備故障を防ぐため、計画的な更新を実施します。

今後は、より効率的な点検実施に向け、ドローンを活用した点検など、新たな技術の活用についても、積極的に検討していきます。

<主な点検・設備更新の様子>



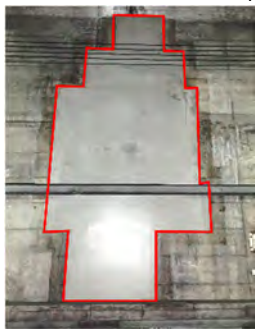
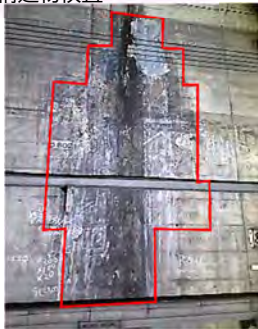
構造物検査



トンネル巡視



分岐器更新工事



土木構造物補修イメージ 補修前（左） 補修後（右）



変電所設備更新の様子
（回生インバータ更新）



車両検修設備

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
土木構造物補修	(空港線) 姪浜～博多 21カ所 (箱崎線) 天神～箱崎九大前 3カ所	(空港線) 姪浜～東比恵 13カ所 (七隈線) 薬院大通～櫛田神社前 2カ所	(七隈線) 天神南～櫛田神社前 1カ所 ※新規補修箇所（想定）13カ所	※新規補修箇所（想定）10カ所
軌道施設更新	●レール更新 (空港線) 姪浜～藤崎 約800m ●分岐マクラギ更新 (空港線) 西新～藤崎 1カ所	●分岐マクラギ更新 (箱崎線) 中洲川端～呉服町 1カ所	●分岐マクラギ更新 (箱崎線) 中洲川端～天神 1カ所	●分岐マクラギ更新 (箱崎線) 中洲川端～呉服町 1カ所
変電所設備更新	空港・箱崎線 交流系特高変圧設備工事 2カ所 空港・箱崎線 直流系特高変圧設備工事 2カ所（7年度～9年度：1カ所、9～10年度：1カ所） 七隈線 電力遠征設備工事（電気室・変電所用）		七隈線 高圧配電設備工事 1カ所	
車両検修設備更新	既存設備撤去（共通） 機器基礎工事	機器製作・設置 車輪削正装置（完成）	実施設計開始（2期工事） 試験調整 ★完了	2期工事開始
自動列車制御装置（ＡＴＣ）更新	信号用無停電電源装置 1カ所	七隈線自動列車制御装置工事 1カ所	空港・箱崎線自動列車制御装置工事 1カ所	
電気室設備更新	空港・箱崎線 高低圧配電盤改良工事（9年度全駅完了） 空港・箱崎線 直流電源装置工事（12年度全駅完了）			
信号設備更新（連動装置）	電子連動装置工事（橋本車両基地）			

イ) 空港・箱崎線車両の更新（4000 系車両の導入）

運用開始から約 40 年経過した空港・箱崎線車両（1000N系）全 18 編成について、2027（令和 9）年度までに全編成を更新し、新型車両（4000 系）を導入することで、さらなる輸送の安全性の向上を図ります。

また、4000 系車両には、こども連れや車いすの方、大きい手荷物をお持ちの方が快適に利用できるフリースペースの設置、ホームと車両の段差を小さくするとともに、高効率モーターの採用や車内照明などの LED 化等も取り入れており、より快適で、環境にも優しい車両となっています。



1000N系車両



4000系車両



4000系車両フリースペース

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
空港・箱崎線車両の更新 （4000系車両の導入）	5 編成 【累計 8 編成】	5 編成 【累計 13 編成】	5 編成 【全18編成完了】	—

※2024（令和 6）年度末時点で 3 編成導入済

ウ) 七隈線車両の大規模改修

七隈線で使用している 3000 系車両全 17 編成については、列車の安全運行に直結する列車制御装置を更新することで、経年劣化による設備故障を未然に防ぎ、さらなる安全性の確保に努めます。

なお、車体の内装やその他の機器等については、2028（令和 10）年度以降に、段階的に改修を行います。



3000系車両



自動列車制御装置（ATC）

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
七隈線車両の大規模改修	列車制御装置更新 →★完了			●空調装置等更新開始

主要施策2 安心への取組み

- ◆ 大規模災害などを想定した関係機関との継続的な合同訓練等、有事に対する備えを強化します。
- ◆ また、駅や車内における犯罪等の未然防止など、より安心してご利用いただける環境づくりに取り組みます。

① 災害対応力の強化

ア) 隣接ビル等との合同訓練の実施

近年、頻発化・激甚化する地震や風水害などの自然災害へ対応するため、近隣施設や関係機関との連携した駅施設の浸水防止訓練などの災害対応訓練を継続的に実施します。

また、帰宅困難者の発生を想定した訓練など、地下鉄に求められる「新たな課題」も想定した訓練に取り組むことで、災害に対する対応能力の向上を図ります。

<主な訓練>



止水板設置訓練
(止水板取付の様子)



通報・連絡訓練



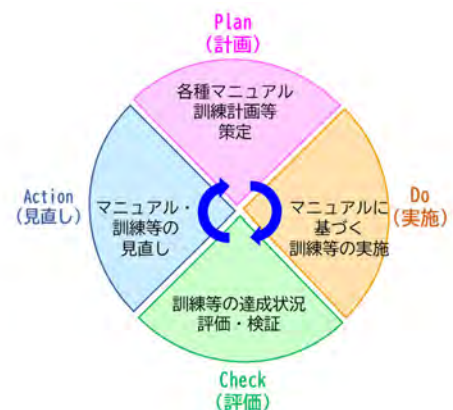
救命訓練

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
合同訓練の実施 ・止水板設置訓練 ・通報・連絡訓練 ・救命訓練 など	●止水板設置訓練（5月頃） ●通報・連絡訓練（11月頃） ●救命訓練（2月頃）	毎年度実施 アップデート	毎年度実施 アップデート	毎年度実施

イ) 災害対応マニュアル等の見直し

地震、大雨、暴風などの自然災害等による帰宅困難者を想定した対応マニュアル等について、各種災害対応訓練の実施結果や他都市における事例を踏えて、適宜見直しを行い、アップデートを図ります。

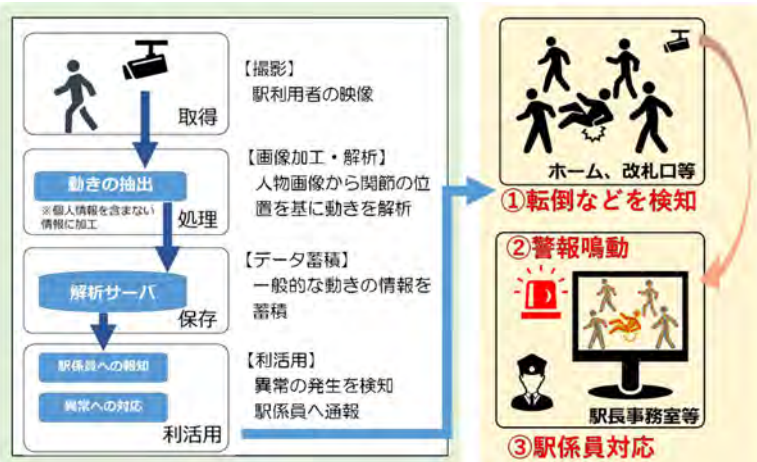
また、それらを局内に周知徹底するとともに、マニュアルに沿った訓練を実施することで、自然災害等に対する職員のスキルアップに繋がります。



内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
マニュアル類の見直し	●見直しの実施	毎年度実施 アップデート	毎年度実施 アップデート	毎年度実施

② その他危機事案への対応力の強化

ア) 新技術を活用した危機事案への対応（駅構内の防犯・安全性のさらなる向上）



画像解析AIを用いた画像解析イメージ（処理フローイメージ（左） 運用イメージ（右））

防犯カメラの映像を利用した画像解析AIなどの新技術について、効果検証、活用検討、導入することで、お客様のさらなる安心の確保を図ります。



啓発ポスター

また、お客様により地下鉄を安心してご利用いただくため、駅構内防犯カメラの増設を推進し、痴漢・盗撮などの犯罪対策を強化するとともに、鉄道事業者間で共通のポスターを活用した啓発活動などを継続して行うことで、お客様の安心確保の強化を図ります。

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
画像解析AIの活用	導入の検討・実施			
駅構内防犯カメラの設置推進	防犯カメラの増設		継続的な増設等の検討	

イ) 巡回警備の強化

警察OB職員の増員や民間の警備会社の活用により、巡回を実施することで、巡回警備の強化を図り、地下鉄車内及び駅構内の犯罪の未然防止や異常時の迅速な対応を行います。



巡回警備の様子

（警察OB職員による巡回（左） 駅係員による巡回（右））

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
巡回警備の強化	●警察OB職員の増員 警察OB職員による巡回の実施		毎年度実施	
	●民間警備会社による巡回警備の導入 民間警備会社による巡回の実施		毎年度実施	

ウ) リアルタイム車内防犯カメラの設置推進

盗撮、痴漢、車内トラブルなどの未然防止、テロ等発生時にも、より迅速かつ的確に組織的な対応を行うなど、お客様により安心して、地下鉄をご利用していただけるよう、地下鉄の保有する全車両へリアルタイム車内防犯カメラの設置を推進します。



リアルタイム車内防犯カメラ



内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
リアルタイム車内防犯カメラの設置	13編成 【累計 23編成】	11編成 【累計 34編成】	15編成 【全49編成完了】	—

※2024（令和6）年度末時点で10編成導入済

エ) 警察、消防などの関係機関との連携強化

駅構内や車内における犯罪の防止、危機事案発生時の早期解決のため、テロ事案や施設障害等の異常時を想定した警察・消防等関係機関との合同訓練などを実施することで、警察や消防等の関係機関との連携強化、交通局職員の対応力向上を図ります。

また、訓練に限らず、テロ対策福岡パートナーシップ推進会議など、関係機関との意見交換、防犯啓発活動等を適宜実施することで、随時、情報共有を行い、さらなる連携の強化を図ります。



車内での傷害事案発生を想定した合同訓練の様子

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
関係機関との連携強化	●テロ対策推進会議（6月頃） ●防犯合同キャンペーン（10月頃） ●関係機関との合同訓練（12月頃） → 毎年度実施 → アップデート	毎年度実施 → アップデート	毎年度実施 → アップデート	毎年度実施

(2) 快適で質の高いサービス

お客様により満足いただける地下鉄を目指して、サービスや駅・車両の利便性をさらに向上させる取組みを推進していきます。

主要施策1 快適・便利な環境づくり

- ◆ 誰もが快適で、気持ちよくご利用いただけるよう、駅のリフレッシュや車両の改修などに取り組むとともに、乗降マナーの啓発活動を強化するなど、「ユニバーサル都市・福岡」にふさわしい地下鉄に向けた取組みを推進します。
- ◆ また、タッチ決済の充実など、DXの推進等による利便性向上に取り組めます。

① 快適にご利用いただくための取組み

ア) 駅のリフレッシュ（駅舎の内装改修等）

開業から約 40 年が経過し経年劣化が進む空港・箱崎線の地上駅を含む全 18 駅（貝塚駅を除く）においては、お客様が快適で、気持ちよく、安全にご利用いただける駅施設を目指し、コンコース・ホームの壁面やトイレの内装など改修を実施しており、計画期間中には主に、駅舎の内装（壁面）の改修を予定しています。

【駅のリフレッシュ】※改修イメージ



駅コンコース壁面改修後



トイレ内装改修後

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
駅舎の内装（壁面）改修	1 駅 【累計 4 駅】	5 駅 【累計 9 駅】	4 駅 【累計 13 駅】	5 駅 【全18駅完了】

※2024（令和6）年度末時点で3駅改修済

※貝塚駅は「貝塚駅のリニューアル」事業で実施。中洲川端駅は1駅としてカウント。

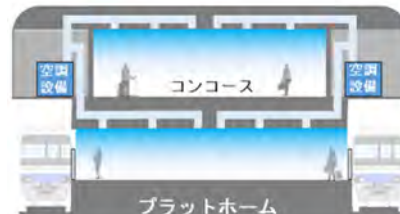
イ) 駅的全館冷房化の推進

近年の平均気温の上昇や、お客様からのご意見を踏まえ、地上駅（姪浜駅及び貝塚駅）を除く全 34 駅において、全館冷房化を実施します。

【全館冷房化の推進】※改修イメージ



改修前（クールルームのみ冷房）



改修後（全体を冷房）

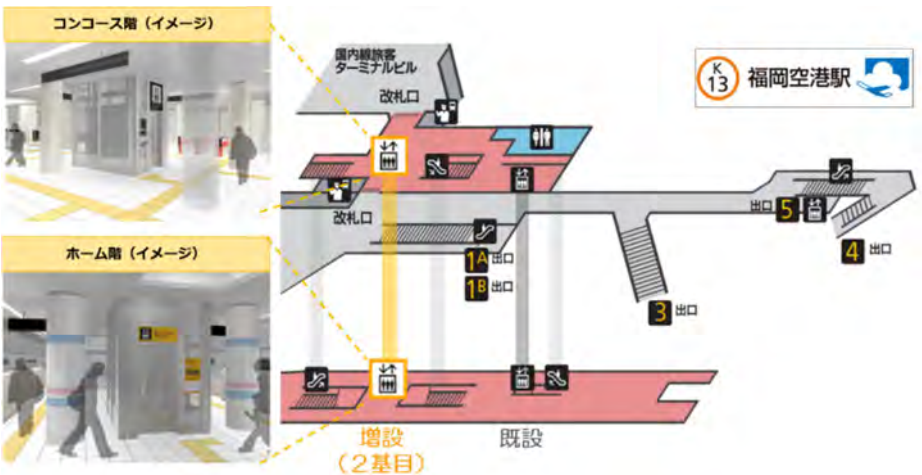
内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
駅的全館冷房化の推進	1 駅 【累計 10 駅】	11 駅 【累計 21 駅】	9 駅 【累計 30 駅】	4 駅（※※） 【全34駅稼働】

※2024（令和6）年度末時点で9駅設置済

※※4 駅は2027（令和9）年度末までに導入し、2028（令和10）年度当初から稼働

ウ) エレベーター・エスカレーターの増設

高齢者や車いす・ベビーカーをご利用のお客様など多くのお客様が地下鉄を利用していただいている状況や、駅周辺の開発等による乗降客の増加などの状況を踏まえ、駅バリアフリールート of 充実及び観光客などの移動円滑化を図るため、昇降機の増設を計画的に進めます。



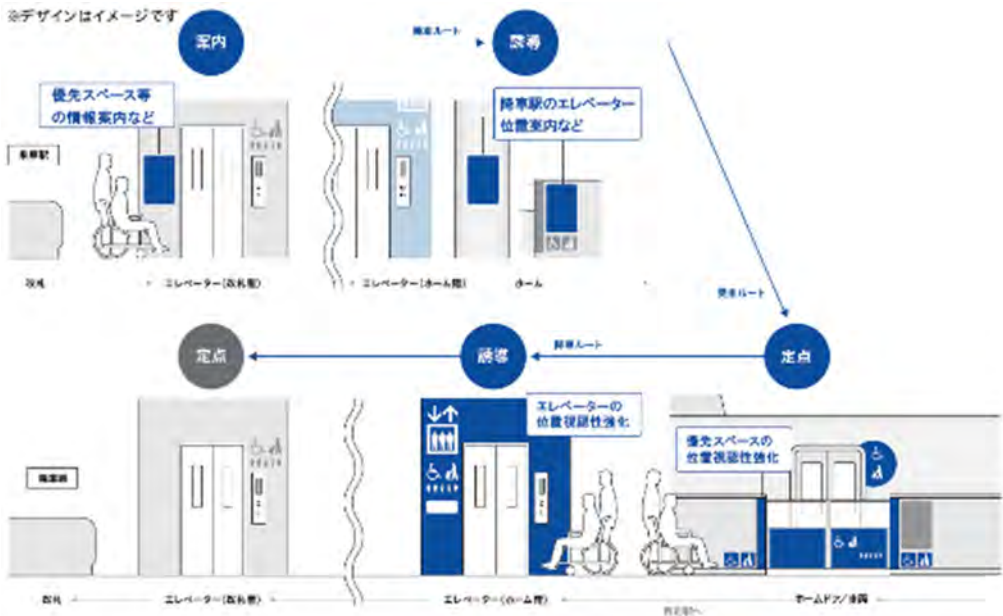
福岡空港駅エレベーター増設 ※改修イメージ

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
昇降機の増設	エレベーター・エスカレーター (箱崎九大前駅新出入口：UR施工)			
	→ 完了			
	エレベーター (福岡空港駅)	→ 完了		
		増設に向けた設計	増設工事	

エ) 案内サインの改良

お子様連れの方や障がいをお持ちの方、高齢者など誰もが安心して快適にご利用いただける「みんながやさしい、みんなにやさしい」駅を目指し案内サインの拡充に取り組みます。

計画期間中においては、エレベーター優先利用案内サインの設置を推進します。



エレベーター優先利用案内サイン
設置イメージ (上)
乗車・降車ルート案内サイン
設置イメージ (左)

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
エレベーター優先利用案内サインの設置	9 駅 【累計：17駅】	9 駅 【累計：26駅】	10 駅 【全36駅完了】	—

※2024 (令和6) 年度末時点で 8 駅設置済

② 気持ちよくご利用いただくための取組み

ア) 車両優先スペースの改修

小さな子どもや子育て中の方など、誰もが快適で気持ちよくご利用できるよう、地下鉄全車両の優先席の対象に「小さなお子さま」を追加するとともに、優先スペースの壁及び床の色を一般部と明確に区分する改修に取り組みます。



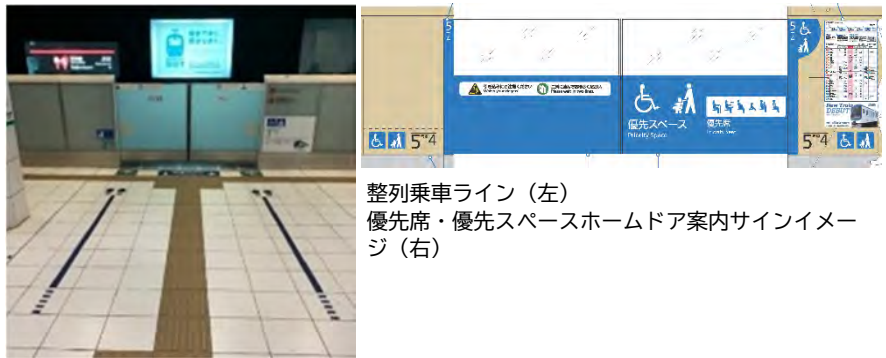
内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
車両優先スペースの改修	13編成 【累計 22編成】	11編成 【累計 33編成】	12編成 【累計 45編成】	4 編成 【全49編成完了】

※2024（令和6）年度末時点で9編成導入済

イ) 乗降マナーの向上に向けた取組み強化

優先席・優先スペースのホームドアにおける案内サインの充実を図るとともに、利用方法について、駅構内放送や車内表示などによる啓発活動を進めます。

また、ホームの整列ラインについて、七隈線各駅へ順次設置を進めるとともに、既に設置している空港・箱崎線各駅においても、混雑状況や利用実態に応じた改善に取り組むことで、乗降マナーの向上に向けた取組みを強化します。



内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
ホームドア案内サイン	案内サイン設置 全駅完了	検討・実施 アップデート	検討・実施 アップデート	検討・実施
整列乗車ライン	●姪浜駅設置（空港・七隈線各駅へ順次設置）	●箱崎線完了 アップデート	●アップデート	●アップデート

ウ) エスカレーター安全利用啓発の強化

エスカレーターを「歩かず、2列でご利用いただく」ために、自動音声案内放送やポスター、床サイン等による啓発を強化するとともに、A Iなどの新技術を活用した新たな手法を用いた取組みについて、検討を進めます。



エスカレーター2列利用床サイン

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
安全利用啓発	継続実施・検討 → アップデート	継続実施・検討 → アップデート	継続実施・検討 → アップデート	継続実施・検討 →

③ DXの推進等

ア) 出改札設備更新・改造

2028（令和10）年度までに老朽化した機器（249台）を更新・改造することで、故障率の低下を図るとともに、タッチ決済サービスの充実や、QR乗車券の導入に対応することで、お客様サービスの向上及び効率的な保守運用を行います。



改札機

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
改札機更新等	機器要件検討 →	機器製作 →	改札機更新工事等 →	更新完了

イ) タッチ決済サービスの充実

2024（令和6）年度から本格導入したタッチ決済はチャージの必要が無いことや、スマートフォンでの利用も可能なことから、外国人旅行者だけでなく地下鉄沿線のお客様に幅広く利用されていくことを踏まえ、改札機の更新に合わせて、全ての改札機へタッチ決済読み取り機の設置を推進します。



タッチ決済読み取り機

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
タッチ決済読み取り機設置			改札機更新に合わせた機器の設置 →	130通路 （全通路対応完了）

※2024（令和6）年度末時点で119通路設置済

ウ) QR乗車券の導入

出改札機の更新に合わせてQR乗車券を導入し、磁気券の廃止を進めることで、ライフサイクルコストの削減を図るとともに、QR乗車券の特性を活かした企画乗車券などの新サービス提供の検討を行います。



QR乗車券読み取り機イメージ（左）
QR乗車券イメージ（右）

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
QR乗車券の導入	機器要件検討 →	機器構築 →		QR乗車券 導入完了

※ QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

主要施策2 質の高いサービスの提供

- ◆ 多様化するお客様ニーズの把握、分析を行うことでニーズに応じたダイヤの改正等、快適で便利な輸送の提供、さらなる充実に取り組みます。また、お客様により満足いただける接客サービス等の展開に取り組みます。
- ◆ 多様なツールを活用することで、地下鉄に関する情報を迅速・的確に、わかりやすく発信、お伝えします。

① 多様化するニーズに応じた輸送の提供・充実

ア) 七隈線車両増備による混雑緩和

混雑緩和の取組みとして、七隈線車両（3000A系）の4編成増備に取り組みます。

2026（令和8）年度及び2027（令和9）年度にそれぞれ2編成ずつ増備を行います。



3000A系

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
七隈線車両増備	—	2編成 【累計 2編成】	2編成 【全4編成完了】	—

イ) ダイヤ改正等による混雑緩和や乗継利便性の向上

空港・箱崎線については、新型車両（4000系）の導入にあわせて、2025（令和7）年3月にダイヤ改正を実施します。

七隈線についても、2026（令和8）年度及び2027（令和9）年度の車両増備に合わせたダイヤ改正を実施することで、さらなる混雑の緩和を図ります。



4000系（空港・箱崎線新型車両）

3000A系（七隈線増備車両）

今後も、より快適で便利な輸送の提供を目指し、ダイヤ改正の結果や、お客様のご利用状況などを踏まえながら、よりよいダイヤへの見直しを随時行います。

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
空港線・箱崎線ダイヤ改正	●R7.3月ダイヤ改正（新型車両導入に合わせた増便） → 利用状況把握（混雑率調査：6月、10月） → ○ダイヤ改正（適宜実施）	○ダイヤ改正（適宜実施） → 利用状況把握	○ダイヤ改正（適宜実施） → 利用状況把握	○ダイヤ改正（適宜実施） → 利用状況把握
七隈線ダイヤ改正	→ 利用状況把握（混雑率調査：6月、10月） → ○ダイヤ改正（適宜実施）	→ 利用状況把握 → ●ダイヤ改正（車両増備による増便） → 利用状況把握 → 車両増備（4編成）	→ 利用状況把握 → ●ダイヤ改正（車両増備による増便） → 利用状況把握	→ 利用状況把握

② お客様の視点に立ったサービスの展開

ア) お客様の声やお客様満足度調査を活かしたサービスの向上

生活様式の変化などで多様化するお客様ニーズについて、寄せられるお客様の声やお客様満足度調査により把握・分析し、それらを活用することで、お客様の視点に立ち、より満足いただけるサービスの提供や、快適・便利な駅・車両への改善を図ります。

また、いただいたご意見等により改善へつながった事例等については、適宜、地下鉄ホームページで公表します。



地下鉄ホームページでの改善事例の紹介

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
お客様の声の収集 お客様満足度調査の実施 改善事例の公表	●お客様の声の収集・分析（随時） ●お客様満足度調査（7月） ●改善事例の公表（6月、11月頃）	★取組み内容等アップデート（事業の継続実施）	★取組み内容等アップデート（事業の継続実施）	★取組み内容等アップデート（事業の継続実施）

イ) 駅係員の教育訓練や接客研修の強化

すべての駅係員を対象に防災・防犯訓練を行なうとともに、お客様のご意見や時流をテーマに、外部講師によるロールプレイング研修や駅接客選手権を実施し、接客レベルの継続的な向上を図ります。

また、駅係員全員がAEDを使用した普通救命講習を受講し、急病のお客様の救護に備えています。さらに、駅係員がサービス介助士の資格を取得し、身体の不自由なお客様や高齢のお客様が安心して利用いただけるよう取り組みます。

<主な訓練・研修など>



防犯研修の様子



接客研修の様子



駅接客選手権の様子

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
研修などの実施 ・防犯研修 ・接客研修 ・駅接客選手権 など	●防犯研修、接客研修（10月頃） ●駅接客選手権（11月頃） ●サービス介助士資格取得	（継続実施）	★内容のアップデート	★内容のアップデート

ウ) SNSなどの活用によるわかりやすい情報発信

地下鉄公式のSNSアカウント等を活用し、運行情報や沿線のイベント情報などをより多くのお客様及び来訪者の方にご理解いただけるよう、情報伝達力の高い動画投稿や、他の公式アカウント等と連携した情報発信を行います。



福岡市地下鉄ホームページ（左） X（旧Twitter）（中） Instagram（右）

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
わかりやすい情報発信	SNSアカウント等を活用した情報発信	イベントの機会などを捉えた情報発信の実施		

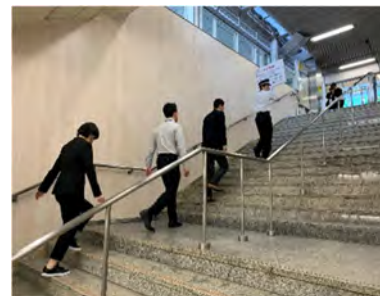
エ) 多言語表記等による利用案内の充実

天神・博多・福岡空港など22駅では、日本語、英語、中国語、韓国語の4か国語で駅構内の誘導案内などを表記しています。

博多駅に配置している「地下鉄駅コンシェルジュ」について、来街者が多い福岡空港駅への増員配置を行うなど、地下鉄の利用案内の充実を図ります。



地下鉄駅コンシェルジュ（博多駅）



プラカードでの案内の様子

また、災害時や運行の大幅な乱れがあるときは、4か国語での駅構内掲示及び放送により外国人の方にもわかりやすい避難誘導を行います。

<主な多言語案内サービス>



外国語サポートサービス
（全22か国語の電話通訳システム）



4か国語表記

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
地下鉄駅コンシェルジュ	●福岡空港駅へ増員配置	配置継続	配置継続	配置継続

(3) まちづくり・環境配慮

都市と共に発展する地下鉄を目指して、まちづくりと連携した利便性向上の取組みに加え、環境にやさしい公共交通機関として脱炭素の取組みを推進していきます。

主要施策1 まちづくりへの取組み

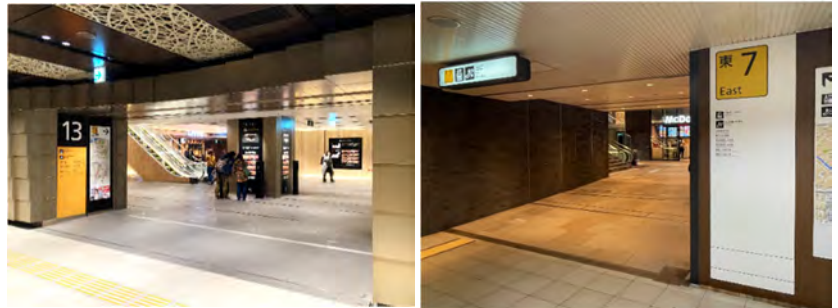
- ◆ 開発事業者などと連携した駅施設の改良などにより、まちづくりにあわせた駅の利便性向上を推進します。
- ◆ 沿線地域の施設やイベントなどと連携し、地下鉄を通じた沿線地域の活性化に貢献します。

① 駅と周辺施設との接続などによる結節機能の拡充

ア) ビルと駅との接続による新たな出入口の設置・改修

計画期間中には、民間ビルの建替えに合わせて、天神駅東口において新たな出入口が供用されるほか、西口2番出入口の改修を予定しています。

今後も天神ビッグバンや九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくりなど、地下鉄駅周辺における民間ビルの建替えなどの機会を捉え、開発事業者などと連携して、ビルと駅との接続による新たな出入口の設置や改修を誘導し、バリアフリールート



ビルと駅との接続例（天神駅13出入口（左） 博多駅東7出入口（右））

の拡充やお客様の利便性向上などに取り組めます。

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
駅出入口の新設・改修	●天神駅東口新出入口（4月） ●天神駅2出入口改修（5月） 箱崎九大前駅新出入口工事	天神・博多地区 接続協議	天神・博多地区 接続協議	天神・博多地区 接続協議

イ) 貝塚駅のリニューアル

九大跡地のまちづくりの進捗に合わせて駅舎（内外装）の改修を実施することで、建設から約40年が経過した貝塚駅をリフレッシュし、施設の安全性を確保するとともに、誰もが快適で、気持ちよくご利用いただける駅へリニューアルします。

【貝塚駅リニューアル予定箇所】※現在の状況



外観（東面）



2階コンコース



1階ホーム

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
貝塚駅のリニューアル	設計	改修工事	リニューアル完了	

② 地下鉄を通じた地域の魅力発信

ア) 駅の魅力づくりの推進

駅のリフレッシュに加え、地下鉄沿線の観光資源や魅力あるコンテンツと連携した駅装飾等に取り組むことで、駅の魅力づくりを推進し、沿線地域の活性化に貢献します。

<これまでの駅装飾の取組み例>



福岡市動植物園との連携（薬院大通駅）



福岡市科学館との連携（六本松駅）



博多旧市街口との連携（祇園駅）

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
駅装飾等の実施	地下鉄沿線の観光資源やコンテンツ等との連携による駅装飾の検討・実施			

③ 地下鉄への関心・理解を深めていただく機会の提供

ア) 地下鉄フェスタの開催

橋本車両基地や姪浜車両基地において、お子様から大人まで楽しんでいただける基地開放イベント「地下鉄フェスタ」を毎年10月頃に開催しています。

今後もみなさまに楽しんでいただけるイベント等を検討・実施することで、日頃の感謝を伝えるとともに、地下鉄事業に対する興味関心や理解を深めていただく機会の提供に努めます。



地下鉄フェスタ 2024の様子

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
地下鉄事業に対する興味関心や理解を深めていただく機会の提供	地下鉄フェスタの開催（毎年10月頃）	内容検討・アップデート		
	イベント等の検討・実施	開催	開催	開催

主要施策2 環境配慮の取組み

- ◆ 他の公共交通機関と連携した取組みの推進により、お客様の利便性向上を図るとともに、自家用車利用から環境にやさしい地下鉄利用への転換を図ります。
- ◆ 省エネ機器の採用等による消費エネルギーの抑制に取り組むほか、地下鉄用電力として再生可能エネルギー由来電力を積極的に導入するなど、脱炭素社会の実現に向けた取組みを推進します。

① マイカーから公共交通利用促進策の実施

ア) 公共交通への利用転換を図る取組み

環境にやさしい乗り物である地下鉄の利用促進を図ることを目的として、J R九州や西鉄電車・バスなどの他の交通事業者と連携した乗車券を開発するなど、魅力的な企画乗車券等の発売に向けた取組みなどを推進します。



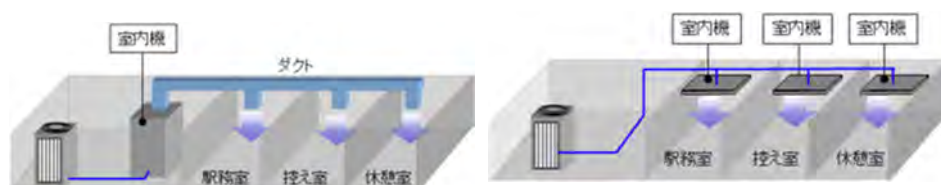
小学生 100 円パス

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
他の事業者と連携した取組みの推進	企画乗車券の検討・発売	検討・実施	検討・実施	検討・実施

② 脱炭素社会の実現に向けた取組みの推進

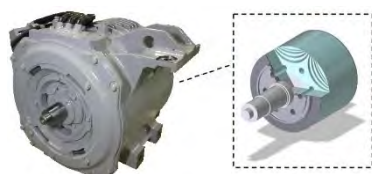
ア) 施設・車両更新時等における省エネ機器の採用

駅の空調設備（駅務室）については、1 台の室内機で全部屋を一体的に空調する集中空調方式から、部屋ごとに ON/OFF や温度設定が可能な個別空調方式に変更するとともに、より高効率な機器に取り換えることで二酸化炭素の排出量削減に取り組めます。



駅務室の個別空調化イメージ（改修前（左） 改修後（右））

また、1000N系車両の更新には、営業列車としての本格導入は初となる「同期リラクタンスモーター」の採用、車内照明のLED化や車両の軽量化などにより、使用電力の低減を図り、環境に配慮した新型車両（4000系）の製作を推進しています。



同期リラクタンスモーター

○世界最高レベルの効率

回転子鉄心内の磁気抵抗差によって生じる磁極との相互作用で発生する力のみで駆動するため、発熱損失が少なく、効率や質量特性に優れています。

○材料にレアメタルを使用しない構造

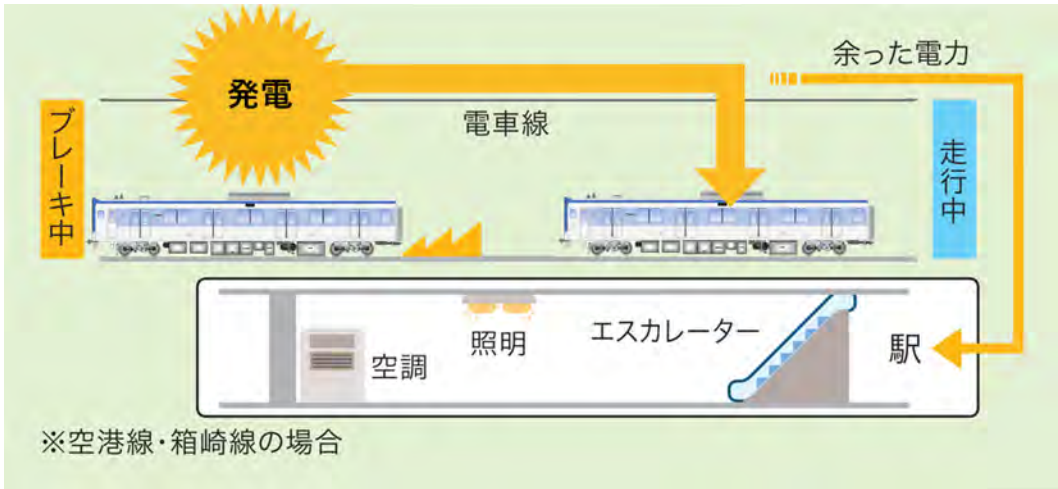
回転子にレアメタルを使用しないことから永久磁石を用いた永久磁石同期電動機よりも資源の有効活用が可能です。

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
駅務室の個別空調化	1 駅 【累計 33駅】	1 駅 【累計 34駅】	—	1 駅 【累計 35駅】
空港・箱崎線車両の更新 （4000系車両の導入）	5 編成 【累計 8 編成】	5 編成 【累計 13編成】	5 編成 【全18編成完了】	—

※2024（令和6）年度末時点で駅務室の個別空調化は32駅実施済、4000系車両は3編成導入済

イ) 回生電力の発電効率の向上

地下鉄の車両はブレーキをかけた際に、発生するエネルギーを電気に変換して、他の車両や駅施設などの電力に再利用しています。新型車両（4000系）においては、この回生電力の発電効率が大幅に向上するため、これまで以上にエネルギーの有効活用を図ります。



回生電力の活用イメージ

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
空港・箱崎線車両の更新 (4000系車両の導入)	5 編成 【累計 8 編成】	5 編成 【累計 13 編成】	5 編成 【全18編成完了】	—

※2024（令和6）年度末時点で3編成導入済

ウ) 駅照明などのLED化の推進

ホーム、コンコースなどの駅照明、トンネル内照明、電照広告照明のLED化を推進し、消費エネルギーの抑制に取り組みます。

<これまでのLED化の取組み例>

駅照明（博多駅）

トンネル内照明（空港・箱崎線）

電照広告

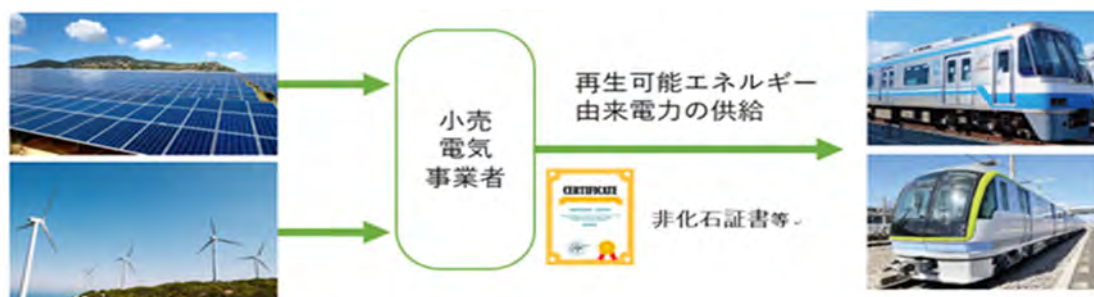
内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
駅照明	七隈線各駅（ホーム・コンコース）		全駅完了	
トンネル内照明	七隈線（全区間） 全線完了			
電照広告			全箇所完了	

工) 再生可能エネルギー由来電力の導入

脱炭素社会の実現に向け、地下鉄用電力への再生可能エネルギー由来電力の利用を推進します。



地下鉄環境キャラクター
「メコロ」



内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
再生可能エネルギー由来電力の導入割合	100%	導入割合100%の継続		

オ) 庁用自動車の電気自動車への切り替え

庁用自動車をガソリン車から電気自動車へ切り替え、二酸化炭素の排出量削減に取り組みます。



導入車両例

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
電気自動車への切り替え	4台 【累計 5台】			
充電設備の設置	4か所 【累計 5か所】			

※2024（令和6）年度末時点で電気自動車は1台導入済、充電設備は1か所設置済

(4) 事業を支える経営基盤

将来にわたって持続可能な地下鉄を目指して、事業を安定的に支える経営基盤づくりの取組みを推進していきます。

主要施策1 収益の確保

- ◆ お客様のニーズを分析し、戦略的な営業施策を展開することにより、利用者のさらなる増加を図り、地下鉄事業の持続的な運営とアップデートに必要な財源の確保に取り組みます。

① 利用促進策の充実

ア) 沿線イベント開催に合わせた臨時列車の運行等

ドームイベント開催時は、唐人町駅を利用されるお客様が大幅に増えることから、より快適で、スムーズに地下鉄へご乗車いただけるよう、臨時列車を運行するとともに、駅構内や駅周辺での誘導案内を行うことや、改札口の増設に取り組みます。

また、山笠などの沿線イベント開催時にも、多くのお客様の地下鉄利用が見込まれることから、混雑緩和や快適性向上のため、臨時列車を運行し、利便性の向上を図ります。



ドームイベント開催時の唐人町駅

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
沿線イベント開催に合わせた臨時列車の運行等	臨時列車の運行等実施	実施	実施	実施
	お客様の案内・誘導	実施	実施	実施
唐人町駅の改札口の増設	工事 ●新改札口供用開始（イベント時）			

イ) 地下鉄の利用機会創出に向けたプロモーションの強化

地下鉄の利便性と沿線の魅力をあわせたお出かけ情報を、SNSの動画配信等を活用して積極的に発信するとともに、大型の沿線施設とタイアップしたキャンペーン等を開催することで、ファミリーをはじめとした幅広いお客様の地下鉄の利用機会を創出し、将来的な行動変容を促し、地下鉄の利用者増に繋がります。



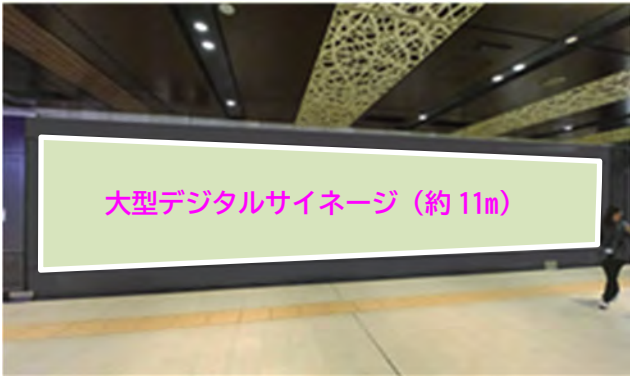
沿線施設とのタイアップ例

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
キャンペーン等の開催	沿線施設等とのタイアップを年数回実施（スタンプラリーなど）			
	実施	実施	実施	実施
	SNS等での広報の実施	継続実施	継続実施	継続実施

② 広告料収入の確保

ア) 大型デジタルサイネージなど新規広告媒体の導入

天神駅東口への大型デジタルサイネージ設置に加え、空港・箱崎線の新型車両（4000 系）に広告用デジタルサイネージを導入するなど、新規広告媒体を積極的に導入していくことで、広告料収入の確保に取り組みます。



天神駅東口大型デジタルサイネージ設置イメージ



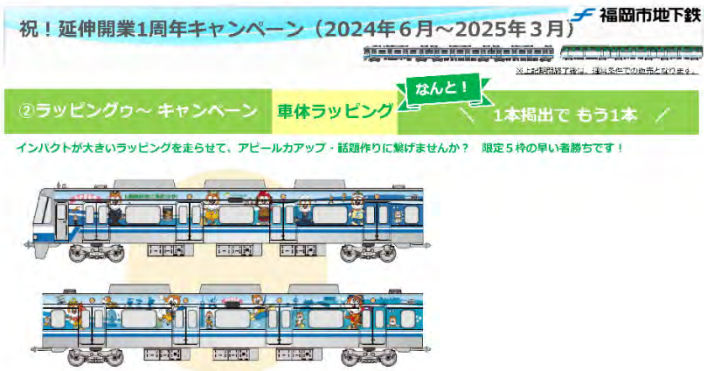
新型車両（4000 系）デジタルサイネージ

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
新規広告媒体の導入	新規広告媒体の検討・導入			
	●天神駅東口大型デジタルサイネージ販売開始 ●博多駅筑紫口、天神南駅デジタルサイネージ販売開始（予定）			
広告用車内デジタルサイネージ設置 （4000系車両の導入）	5 編成 【累計 8 編成】	5 編成 【累計 13 編成】	5 編成 【全18編成完了】	—

※広告用車内デジタルサイネージは2024（令和6）年度末時点で4000系車両3編成に導入済

イ) セット販売や各種キャンペーンの実施

複数の広告媒体を組み合わせた魅力的なセット販売、他交通事業者との共同販売、対象・期間を限定したキャンペーンなどの販売促進により、広告料収入の確保に取り組みます。



キャンペーンの実施例

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
各種キャンペーンの実施	各種キャンペーンの検討・実施			
	継続実施			

③ 駅ナカ事業収入の確保

ア) 魅力的な店舗や多様な自動販売機等の誘致

お客様ニーズに加え、各駅の利用者層や駅周辺施設の特性等も考慮した魅力的な店舗等の誘致を推進します。令和7年度は、天神駅東口新区画に誘致した新店舗が開業、博多駅筑紫口にも新たな店舗区画を整備し、店舗を誘致します。

また、各種自動販売機や新しいサービス機器等の設置による小規模スペースの有効活用も推進することで、お客様の利便性向上と駅ナカ事業収入の確保に取り組みます。



天神駅東口駅ナカ店舗

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
魅力的な店舗や多様な自動販売機等の誘致	●天神駅東口新区画開業 ●博多駅筑紫口新区画開業 ●店舗等公募	●店舗等公募	●店舗等公募	●店舗等公募

主要施策2 未来の地下鉄事業を支える人材の育成

- ◆ 地下鉄事業を安定的かつ円滑に継続し、さらに発展させていくため、計画的な職員採用・人材育成に取り組むとともに、安全・安心を支えるための技術力の継承・向上などを着実に推進していきます。
- ◆ 将来にわたって持続可能な体制を構築するため、今後の技術革新も踏まえたさらなる効率化や省力化について研究・検討を進めます。

① 運輸関係職員の安定的な人材確保

ア) 就職情報サイトの活用による採用活動の強化

これまで、就職情報サイトへの採用情報の掲載、ポスターの作成、学生等へ向けた説明会などを実施してきましたが、今後も継続的な人員の確保が必要となるため、就職情報サイトの利用拡大やSNS等の活用など、さらなる採用活動の強化を実施します。



職員採用ポスター（左）
採用ポスター（右）

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
採用活動	●就職活動イベントへの参加（6月頃） ●SNS等による採用情報の発信（8月頃）	継続実施・検討 アップデート	採用ポスター更新 継続実施・検討 アップデート	継続実施・検討

② 人材育成に向けた新たな仕組みの導入

ア) 技術関係職員の専門研修の強化

技術関係職員の技能保持や能力向上を図るため、研修メニューを充実し、様々な専門機関への研修受講拡大を進めます。また、土木・建築・電気・機械の4職種について、専門的技術を有する技術指導教官の配置拡大を行うとともに、新たに職場トレーナー担当職員を配置し、OJTによる職員の指導・育成の強化を図ります。

さらに、技術継承懇談会など、実務に基づいた対話型研修を実施し、研修内容をより自分事としてとらえる機会を提供することで、職員の理解度向上、技術力強化を図ります。



技術継承懇談会

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
技術関係職員の研修メニューの充実	●専門機関研修の調査検討	●専門機関研修の拡大実施（順次アップデート） ●技術継承懇談会などの対話型研修の拡大実施（順次アップデート）		
指導体制の強化	●職場トレーナー制度導入 ●トレーナー担当職員（コーチング）研修（毎年実施）	●技術指導教官の配置拡大		

イ) 認定事業者制度に基づく設計管理者に必要な資格取得に向けた支援の拡大

将来にわたって認定鉄道事業者の要件を満たすために必要な「鉄道設計技士（鉄道土木、鉄道電気、鉄道車両）」の資格保有職員を確保するため、資格取得試験受験者に対する助成制度の拡充や、講師派遣などによる自主研究活動への支援の充実等を図ります。

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
資格取得に向けた支援の拡大 （制度拡充、自主研究活動支援）	●助成制度の拡充 自主研究活動支援（毎年実施） → ●受験	→ ●受験	→ ●受験	→ ●受験
資格保有職員の確保 （試験合格者数）	2名 【累計 17名】	1名 【累計 18名】	1名 【累計 19名】	1名 【累計 20名】

※2024（令和6）年度末時点の資格保有職員（試験合格者数）：15名

ウ) 乗務員の運転技術の向上

乗務員の運転技術等を向上させるため、列車添乗指導を強化するとともに、経験年数・年齢に応じて実施するフォローアップ研修や安全研修等の乗務員を対象とした研修を拡充します。

また、空港・箱崎線への新型車両（4000系）導入に伴う、運転シミュレーターの更新にあわせて訓練機能を充実させ、実車では再現が困難な様々な事案への対応訓練を実施することで、乗務員のさらなる運転技術の向上を図ります。



列車添乗指導



乗務員フォローアップ研修



運転シミュレーター訓練

内 容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
指導・研修等の実施	列車添乗指導（毎年実施） → フォローアップ研修、 安全研修等（毎年実施） →	→	→	→
運転シミュレーターの更新	●運転シミュレーター 更新契約（7月頃） 製作開始 →		→ ●完成	●新シミュレーター 訓練開始

3 目標一覧

長期ビジョンにおける目標の達成に向け、4つの施策の柱に基づく取組みを着実に推進していくため、次のとおり各施策における事業の目標を定め、進捗管理や評価等を行っていきます。

<施策の柱1 安全・安心>

項目	現 状 (2023 (令和5) 年度)	目 標 (2028 (令和10) 年度)	備 考
ヒューマンエラーの件数	49.8 件※2	50%減※3 (現状に対して)	列車の運行を阻害する事象において、その原因が係員に起因するものの件数
施設・車両に起因する運行への影響件数※1	10.4 件※2	50%減※3 (現状に対して)	施設・車両に起因する5分以上の遅延・運休の件数
施工不良・作業不良に起因する障害の件数	9.2 件※2	50%減※3 (現状に対して)	列車の運行阻害の有無は問わない
空港・箱崎線車両の更新(4000系車両の導入)	—	18 編成	2028 (令和10) 年度までに全編成更新完了
リアルタイム車内防犯カメラの設置編成数	2 編成	49 編成	2028 (令和10) 年度までに全編成設置完了

※1 JR車両は除く

※2 2019 (令和元) ~2023 (令和5) 年度平均

※3 2025 (令和7) ~2028 (令和10) 年度平均

<施策の柱2 快適で質の高いサービス>

項目	現 状 (2023 (令和5) 年度)	目 標 (2028 (令和10) 年度)	備 考 (指標の意味・目標設定の考え方など)
七隈線車両増備	—	4 編成	2028 (令和10) 年度までに全4編成増備完了
全館冷房化した地下駅数	9 駅	34 駅	2028 (令和10) 年度までに全地下駅導入完了
エレベーター優先利用案内サインを設置した駅数	—	36 駅	2028 (令和10) 年度までに全駅設置完了
車両優先スペースを改修した編成数	—	49 編成	2028 (令和10) 年度までに全編成改修完了
改札機のタッチ決済端末設置割合	18.7%	100%	2028 (令和10) 年度までに全改札機設置完了
QR乗車券の導入	—	導入完了	2028 (令和10) 年度までに導入完了

<施策の柱3 まちづくり・環境配慮>

項目	現 状 (2023 (令和5) 年度)	目 標 (2028 (令和10) 年度)	備 考 (指標の意味・目標設定の考え方など)
貝塚駅のリニューアル	—	リニューアル完了	2028 (令和10) 年度までに駅リニューアル完了
新型モーター等の導入(4000系車両の導入)	—	18 編成	2028 (令和10) 年度までに全編成更新完了 ※再掲：施策の柱1
駅照明などのLED化の推進	空港・箱崎線完了	全線完了	2028 (令和10) 年度までに駅照明、トンネル内照明全線完了
地下鉄電力への再生可能エネルギー由来電力の導入割合	5%	100%	2028 (令和10) 年度までに100%導入完了

<施策の柱4 事業を支える経営基盤>

項目	現 状 (2023 (令和5) 年度)	目 標 (2028 (令和10) 年度)	備 考 (指標の意味・目標設定の考え方など)
運輸収益※4	313 億円	373 億円	2028 (令和10) 年度末時点の運輸収益
累積損益※4	△1,004 億円	△651 億円	2028 (令和10) 年度末時点の累積欠損金額
設計管理者等資格保有職員の確保	15 人	20 人	2028 (令和10) 年度末時点の設計管理者等の資格保有職員数

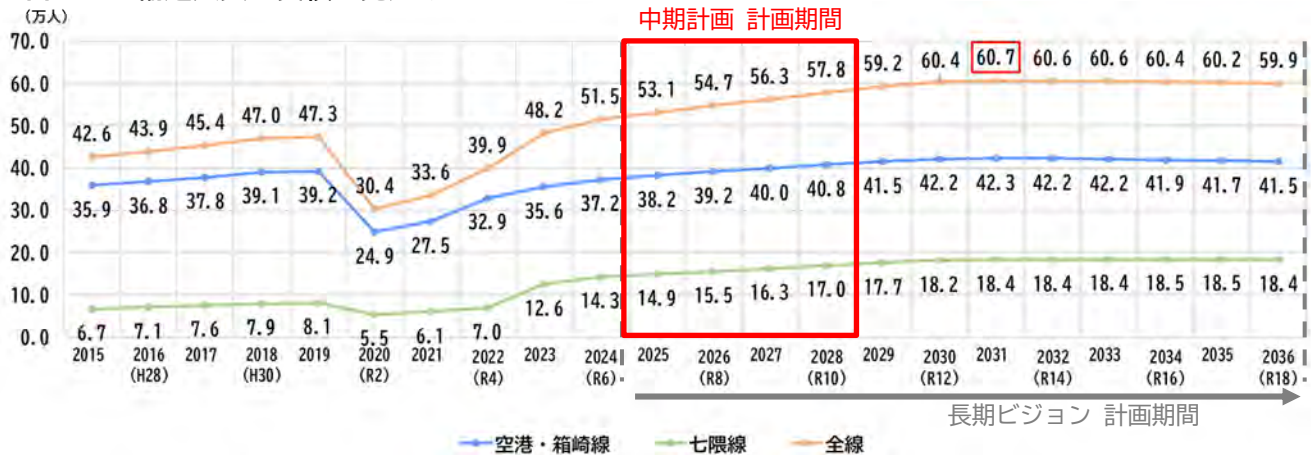
※4 税抜き

第3章 財政計画

1 輸送人員の見込み

- 福岡市の人口は当面増加傾向が見込まれること、また、天神ビッグバンや博多コネクティッドなどの街づくりが進展していくこと等により、輸送人員は、中期計画の期間中の4年間は、堅調に増加していくことを見込んでいます。

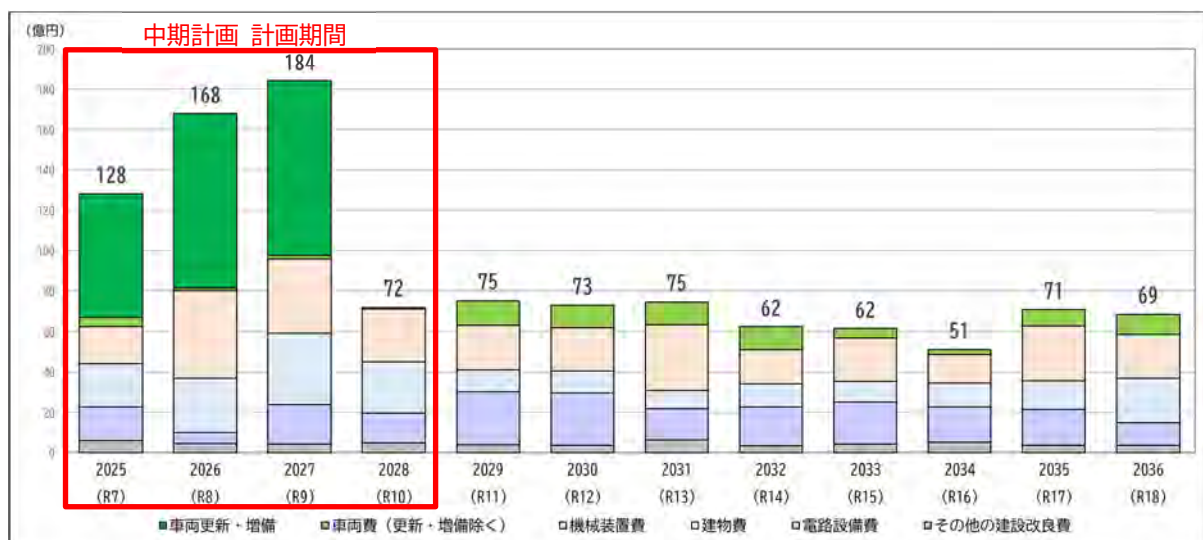
一日あたり輸送人員の実績・見込み



2 投資計画

- 空港・箱崎線は開業から43年、七隈線は20年が経過していることから、施設や設備の機能を適切に維持し、安全・安心な輸送サービスを継続的に提供していくため、計画的な更新・改修に着実に取り組む必要があります。
- 安全・安心に関する投資のほか、快適で質の高いサービスを提供するため、2025（令和7）年度から2028（令和10）年度までの4年間で、約552億円の投資を計画しています。
- 主な投資計画としては、1000N系（空港・箱崎線）車両の更新や、3000A系（七隈線）車両の増備などの車両費に約242億円を計画しているほか、変電所設備、車両検修設備及び出改札設備更新などの機械装置費に約125億円、全館冷房化の推進、昇降機増設や駅照明設備の更新などの建物費に約109億円、自動列車制御装置（ATC）、電気室設備や信号設備更新（連動装置）などの電路設備費に約57億円を計画しています。

<改良・更新投資額の推移>



※各項目で四捨五入しているため、計が一致しない場合がある

3 収支計画

- 収益的収入の根幹である運輸収益（乗車料収入）は、輸送人員の見込みと同様に推移し、2028（令和 10）年度に 373 億円まで増加していく見込みです。
- 収益的支出は、人件費の増に加え、施設の老朽化に伴う修繕や更新に係る経費の増などにより、377 億円まで増加していく見込みです。
- この結果、単年度損益は、60 億円を超える黒字で推移し、安定的に利益を確保できる見込みであり、2028（令和 10）年度末の累積損益は、651 億円の赤字に縮減する見込みです。
- 累積資金過不足は、一定の資金を確保できる見込みであり、2028（令和 10）年度末の企業債残高は、1,676 億円に縮減する見込みです。

中期計画 計画期間

（収益的収支は税抜き、資本的収支は税込み 単位：億円）

年度 区 分	2025 R7	2026 R8	2027 R9	2028 R10	2029 R11	2030 R12	2031 R13	2032 R14	2033 R15	2034 R16	2035 R17	2036 R18
収益的収入	416	423	434	441	450	457	459	456	455	453	452	449
運輸収益	343	354	365	373	383	390	393	392	391	390	390	388
補助金	11	10	9	8	7	6	5	5	5	4	3	3
その他の収入	62	60	60	60	60	60	60	60	59	59	59	58
収益的支出	348	349	366	377	372	367	363	365	361	361	361	366
経費	185	178	182	190	192	194	195	202	201	206	208	214
人件費	57	56	55	58	57	59	58	61	60	62	62	65
修繕費	60	53	57	61	64	63	63	66	66	67	69	70
その他	68	69	70	71	72	73	74	75	75	76	77	78
減価償却費	144	152	164	166	160	156	154	151	149	147	146	147
支払利息	19	19	20	20	20	17	14	12	11	9	7	5
単年度損益	68	74	68	64	78	90	96	92	94	92	91	83
累積損益	△ 857	△ 783	△ 715	△ 651	△ 573	△ 483	△ 388	△ 296	△ 202	△ 110	△ 19	64
資本的収入	234	256	298	165	141	68	50	92	48	28	31	31
資本的支出	371	413	448	339	349	288	274	308	265	240	199	159
差引	△ 136	△ 157	△ 150	△ 174	△ 208	△ 220	△ 224	△ 216	△ 217	△ 212	△ 168	△ 128
累積資金過不足	160	207	269	297	300	300	300	300	300	300	346	423
企業債残高	1,918	1,860	1,824	1,676	1,505	1,327	1,151	975	802	626	511	435

※各項目で四捨五入しているため、計が一致しない場合がある